

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号  
特許第7157705号  
(P7157705)

(45)発行日 令和4年10月20日(2022.10.20)

(24)登録日 令和4年10月12日(2022.10.12)

(51)国際特許分類	F I
B 6 5 D 83/08 (2006.01)	B 6 5 D 83/08 A
B 6 5 D 43/16 (2006.01)	B 6 5 D 43/16 3 0 0
A 4 7 K 7/00 (2006.01)	A 4 7 K 7/00 H

請求項の数 5 (全19頁)

(21)出願番号	特願2019-103988(P2019-103988)	(73)特許権者	390029148 大王製紙株式会社 愛媛県四国中央市三島紙屋町2番60号
(22)出願日	令和1年6月3日(2019.6.3)	(74)代理人	100090033 弁理士 荒船 博司
(65)公開番号	特開2020-196514(P2020-196514 A)	(74)代理人	100093045 弁理士 荒船 良男
(43)公開日	令和2年12月10日(2020.12.10)	(72)発明者	三浦 昭晃 愛媛県四国中央市三島紙屋町5番1号 エリエールプロダクト株式会社内
審査請求日	令和3年4月2日(2021.4.2)	審査官	米村 耕一
前置審査			

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 家庭用薄葉紙収納容器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

内部に家庭用薄葉紙が収納される収納空間を有する容器本体を備えた家庭用薄葉紙収納容器であって、

前記容器本体は、

前記容器本体の上部を形成する容器本体上部と、前記容器本体の下部を形成する容器本体下部と、

容器本体上部の後面と、容器本体下部の後面とを接続する接続部と、を備え、

前記接続部を支点に前記容器本体上部を回動させることで、前記容器本体下部の前記収納空間を閉塞又は露出させ、

前記容器本体上部は、前面から突出し、前面との間に隙間を有する取手部と、前記取手部の内面の左右方向の中央部から左右に等間隔に離れた位置で各々設けられた二つの係止部と、を備え、

前記容器本体下部は、前記前面から前方向に突出した一つの係合突起を備え、

前記一つの係合突起の左右方向の長さは、前記二つの係止部の左右方向の長さと同様に前記係止部間の間隔を足した長さよりも長く、かつ、前記容器本体下部の左右方向の長さよりも短く、

前記二つの係止部の間隔は1.8mmから2.5mmであり、

前記閉塞時に、前記二つの係止部と前記一つの係合突起が係合して前記閉塞の状態を維持するよう構成されていることを特徴とする家庭用薄葉紙収納容器。

## 【請求項 2】

前記閉塞時、前記取手部は、前記係合突起と前後方向に重なることを特徴とする請求項 1 に記載の家庭用薄葉紙収納容器。

## 【請求項 3】

前記容器本体上部は、底面視において前面からアーチ状に突出した形状を有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の家庭用薄葉紙収納容器。

## 【請求項 4】

前記取手部は、前記容器本体上部を構成する他の部位と一体的に設けられていることを特徴とする請求項 3 に記載の家庭用薄葉紙収納容器。

## 【請求項 5】

前記容器本体上部、前記容器本体下部、及び前記接続部は一体的に設けられていることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の家庭用薄葉紙収納容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、家庭用薄葉紙収納容器に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

ウェットティッシュ等の家庭用薄葉紙収納容器においては、内部に家庭用薄葉紙が収納され、家庭用薄葉紙を取り出す取出孔を有する容器本体と、容器本体に回動自在に接続され、取出孔を開閉自在に閉塞する開閉蓋と、を備えたものが知られている。

さらに、容器本体が、容器本体上部と容器本体下部とに分かれ、家庭用薄葉紙を詰め替える際に、容器本体上部と容器本体下部とを分離させる構造のものも知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0003】

【文献】特許第 6510696 号公報

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

このような容器本体が容器本体上部と容器本体下部とに分かれる家庭用薄葉紙収納容器においては、より容易に家庭用薄葉紙の詰め替えができることが望まれていた。

## 【0005】

本発明の目的は、より容易に内部の家庭用薄葉紙を詰め替えることができる家庭用薄葉紙収納容器を提供することである。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0006】

前記課題を解決するために、請求項 1 に記載の発明は、内部に家庭用薄葉紙が収納される収納空間を有する容器本体を備えた家庭用薄葉紙収納容器であって、

前記容器本体は、前記容器本体の上部を形成する容器本体上部と、前記容器本体の下部を形成する容器本体下部と、

容器本体上部の後面と、容器本体下部の後面とを接続する接続部と、を備え、前記接続部を支点に前記容器本体上部を回動させることで、前記容器本体下部の前記収納空間を閉塞又は露出させ、

前記容器本体上部は、前面から突出し、前面との間に隙間を有する取手部と、前記取手部の内面の左右方向の中央部から左右に等間隔に離れた位置で各々設けられた二つの係止部と、を備え、

10

20

30

40

50

前記容器本体下部は、前記前面から前方向に突出した一つの係合突起を備え、

前記一つの係合突起の左右方向の長さは、前記二つの係止部の左右方向の長さと同様に前記係止部間の間隔を足した長さよりも長く、かつ、前記容器本体下部の左右方向の長さよりも短く、

前記二つの係止部の間隔は1.8 mmから2.5 mmであり、

前記閉塞時に、前記二つの係止部と前記一つの係合突起が係合して前記閉塞の状態を維持するよう構成されていることを特徴とする。

【0007】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の家庭用薄葉紙収納容器において、

前記閉塞時は、前記取手部は、前記係合突起と前後方向に重なることを特徴とする。

10

【0009】

請求項3に記載の発明は、請求項1又は2に記載の家庭用薄葉紙収納容器において、

前記容器本体上部は、底面視において前面からアーチ状に突出した形状を有することを特徴とする。

【0010】

請求項4に記載の発明は、請求項3に記載の家庭用薄葉紙収納容器において、

前記取手部は、前記容器本体上部を構成する他の部位と一体的に設けられていることを特徴とする。

【0011】

請求項5に記載の発明は、請求項1から4のいずれか一項に記載の家庭用薄葉紙収納容器において、

20

前記容器本体上部、前記容器本体下部、及び前記接続部は一体的に設けられていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0012】

本発明によれば、より容易に内部の家庭用薄葉紙を詰め替えることができる家庭用薄葉紙収納容器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器の斜視図である。なお、網掛け部分は弾性材料によって形成された部分を表す。この点は他の図においても同様である。

30

【図2】実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器において、開閉蓋が開いた状態を示す斜視図である。

【図3】実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器の背面斜視図である。

【図4】実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器において、容器本体上部が開いた状態を示す斜視図である。

【図5】実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器において、容器本体上部が開いた状態を示す正面図である。

【図6】実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器の底面図である。

【図7】図1のVII-VII線による断面図である。

40

【図8】図7の断面図における取手部周辺を拡大した拡大図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、本発明の実施形態である家庭用薄葉紙収納容器1の具体的な態様について、図1から図8に基づいて説明する。ただし、本発明の技術的範囲は、図示例に限定されるものではない。

以下においては、図に示すように、X軸、Y軸及びZ軸並びに前後方向、左右方向及び上下方向を定めて説明する。すなわち、家庭用薄葉紙収納容器の開閉蓋が備えられた側を「上」、その反対側を「下」、容器本体と開閉蓋とが接続されている側を「後」、その反対側を「前」、前側から見て右手側を「右」、左手側を「左」とし、前後方向に沿った軸

50

をX軸、左右方向に沿った軸をY軸、上下方向に沿った軸をZ軸とする。なお、容器本体上部が容器本体下部に対して回動した場合、容器本体上部の向く方向が変わるが、以下においては、図1に示すように、容器本体上部と容器本体下部とが組み合わさり、収納空間Sが閉塞された状態を基準として方向を定めて説明する。

【0015】

[実施形態の構成]

(全体構成)

家庭用薄葉紙収納容器1は、図1から図8に示すように、内部の家庭用薄葉紙Pを取り出す取出孔113aを備えた容器本体10と、取出孔113aを覆うように開閉自在に容器本体10に接続された開閉蓋2と、容器本体10に備えられ、開閉蓋2の開閉に用いられるボタン部3と、を備え、家庭用薄葉紙収納容器1の内部に家庭用薄葉紙Pが収納される収納空間Sが形成されている。

10

【0016】

(家庭用薄葉紙)

家庭用薄葉紙Pとしては、例えば、小型のウェットシート、ウェットティッシュ等が交互に折り重ねられた状態で積層され、1枚のウェットシート、ウェットティッシュ等を引き出した際に次のウェットシート、ウェットティッシュ等も引き出されるように形成された、所謂ポップアップ式のシートが用いられる。その他には、例えば、長さ方向に一定の間隔でミシン目が施された長大なウェットシート、ウェットティッシュ等がロール状に巻かれ、ミシン目に沿って切り離して使用するロールシートを用いることもできる。

20

【0017】

(容器本体)

容器本体10は、図1から図7に示すように、例えば、全体として、X方向及びZ方向に比してY方向に長い略直方体状に形成され、これがZ方向中央部よりも上部において上下に二分され、容器本体10の上側を構成する容器本体上部11と、容器本体10の下側を構成する容器本体下部12と、で形成されている。容器本体上部11と、容器本体下部12とは容器本体10の後面部において、接続部13によって接続されている。

容器本体上部11と、容器本体下部12と、接続部13とは、射出成形(2色成形)等の方法によって一体的に形成されている。

【0018】

容器本体10は、図1から図7に示すように、容器本体上部11と容器本体下部12とが組み合わさり、内部の収納空間Sが閉塞された状態で、全体が、X方向に好ましくは60mmから150mm、さらに好ましくは80mmから100mm、Y方向に好ましくは80mmから200mm、さらに好ましくは145mmから165mm、Z方向に好ましくは30mmから100mm、さらに好ましくは50mmから70mmの大きさとなるように形成されている。

30

また、各面の厚みは、好ましくは0.5mmから3mm、さらに好ましくは1mmから2mmである。

この大きさ及び厚みであれば、成形効率が高く、かつ実使用に問題ない強度を達成することができる。

40

【0019】

(接続部)

家庭用薄葉紙収納容器1は、図3に示すように、容器本体上部11と容器本体下部12とを接続する接続部13を支点として回動するように形成されている。これによって、図4に示すように収納空間Sが外部に露出された状態とすることができる。

また、収納空間Sを閉塞する際には、使用者は、容器本体上部11を上記とは反対に回動させればよい。

【0020】

また、接続部13が、図3に示すように、家庭用薄葉紙収納容器1の他の部分と比較して薄くなるように形成されていることによって、接続部13が曲がり易くなり、容器本体

50

上部 1 1 を、接続部 1 3 を支点として、容器本体下部 1 2 に対して回動させ易くなる。

【 0 0 2 1 】

なお、生産性は低下するものの、容器本体上部 1 1 と、容器本体下部 1 2 とを別体として形成の上、これらをヒンジ等によって回動自在に接続することも可能である。

また、容器本体 1 0 を Z 方向中央部よりも上部で容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 とに二分することにより、収納された家庭用薄葉紙 P が所定の包装体によって覆われた状態で、収納空間 S に収納される場合において、収納空間 S の閉塞時に包装体のエンドシール部等を挟み込んでしまうおそれを低減することができ、家庭用薄葉紙 P をさらに詰め替え易くなる。

なお、容器本体 1 0 が容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 と、に二分される位置は、Z 方向中央部付近であってもよい。

【 0 0 2 2 】

( 容器本体上部 )

容器本体上部 1 1 は、図 2 から図 8 に示すように、例えば、下面が略矩形形状の開口部となった略直方体状に形成され、上面を形成する天面部 1 1 1 の中央部付近に、Z 方向下方に凹状となる凹部 1 1 2 が形成されており、凹部 1 1 2 内には、中央部に収納空間 S の家庭用薄葉紙 P を取り出すための取出孔 1 1 3 a を有する取出部 1 1 3 が設けられている。さらに、後端部には、付勢部材 1 1 4 が収納される収納凹部 1 1 5 が形成され、前端部には、ボタン部 3 を取り付けるボタン取付部 1 1 6 が形成されている。

また、容器本体上部 1 1 の下面の下端部には、環状の外縁部 1 1 7 と、外縁部 1 1 7 よりも内側に設けられ、外縁部 1 1 7 よりも下方に突出した環状の内縁部 1 1 8 と、が形成されている。

また、容器本体上部 1 1 の前面の下端部には、収納空間 S を露出する際に把持する取手部 1 1 9 が形成されている。

【 0 0 2 3 】

( 容器本体上部の材質 )

容器本体上部 1 1 は、硬質な材料である硬質材料によって形成されている。硬質材料としては、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等を用いることができる。なお、硬度の測定方法は、弾性材料について述べたのと同様である。

また、後述する弾性材料によって形成された部分と、硬質材料によって形成された部分は、射出成形 ( 2 色成形 ) によって一体的に形成されていることが望ましい。

【 0 0 2 4 】

( 凹部 )

凹部 1 1 2 は、図 2 に示すように、天面部 1 1 1 の平面視における中央部付近に形成されている。図 2 においては、凹部 1 1 2 が、平面視において容器本体上部 1 1 の前端部に達する曲線状の略矩形となる場合について図示しているが、凹部 1 1 2 の具体的な形状はこれに限られない。

凹部 1 1 2 の Z 方向の深さは、天面部 1 1 1 から見て、5 mm から 20 mm であることが好ましい。また、平面視における大きさは、内部に取出部 1 1 3 を形成可能であれば、特に限定されないが、X 方向に 40 mm から 80 mm、Y 方向に 40 mm から 120 mm であることが好ましい。

【 0 0 2 5 】

( 取出部 )

取出部 1 1 3 は、凹部 1 1 2 の平面視における中央部付近に形成された、弾性材料で形成された部分であり、取出部 1 1 3 の略中央には、略球面状に盛り上がった膨出部分 1 1 3 b が形成されており、その膨出部分 1 1 3 b に取出孔 1 1 3 a が設けられている。

また、取出孔 1 1 3 a の縁には、取出部 1 1 3 の中央部に向かって、その手前側の縁から突き出している 3 つの突片 1 1 3 c が設けられている。

取出部 1 1 3 は、例えば、Z 方向の厚みが 0.5 mm から 2 mm の膜状に形成されていることが望ましい。

10

20

30

40

50

取出部 1 1 3 を形成する弾性材料としては、例えば、シリコンゴム又はスチレン - ブタジエン系、ポリエステル系、ポリエチレン系若しくはウレタン系等の熱可塑性エラストマー等の弾性を有する材料を用いることができ、硬度が 20 から 90 であることが望ましい。なお、上記硬度は、J I S K 6 2 5 3 (タイプ A デュロメータ) によって測定されたものである。

【 0 0 2 6 】

なお、弾性材料の硬度が上記値よりも低くなると、柔らかすぎて成形が難しく、成形効率が悪くなる点から望ましくない。

また、弾性材料の硬度が上記値よりも高くなると、家庭用薄葉紙 P を取り出すための取出孔 1 1 3 a が形成された取出部 1 1 3 が硬くなり、抵抗が掛かり過ぎて、シートが一枚ずつ取り出しにくくなる点、または、シートを引っ張り出す際に収納空間 S にまで指を入れ難くなる点から望ましくない。

【 0 0 2 7 】

(取出孔)

取出孔 1 1 3 a は、取出部 1 1 3 の平面視における中央部に形成された、収納空間 S につながる孔部である。

例えば、図 2 においては、取出孔 1 1 3 a は、三角形の各辺が内側に円弧状に突出した形状を有し、各頂点と重心点を結ぶように 3 本のスリットが重心点で交わる略逆 Y 字状になっている。また、3 本のスリットのうち X 方向に延在するスリットの幅は他のスリットの幅に比べて広がっている。

なお、スリットの本数はこれより少数でも多数でもよく、また、例えば、十字型に 2 本のスリットを入れることにより形成するようにしてもよい。

取出部 1 1 3 は、取出孔 1 1 3 a の周囲が弾性材料によって形成されていることで、家庭用薄葉紙 P に対して適切な抵抗を掛けることができ、収納空間 S に収納された家庭用薄葉紙 P が引き出された後に、次の家庭用薄葉紙 P を保持する機能を果たす。また、家庭用薄葉紙 P がロールシートである場合において、家庭用薄葉紙 P に設けられている切断用のミシン目で、これを切断することを可能とする。

【 0 0 2 8 】

(突片)

突片 1 1 3 c は、取出孔 1 1 3 a から引き出される家庭用薄葉紙 P が摺接する箇所であり、取出孔 1 1 3 a から引き出される家庭用薄葉紙 P に対して適切な抵抗を掛けるために設けられている。

具体的には、使用者が家庭用薄葉紙収納容器 1 の開閉蓋 2 を開放して家庭用薄葉紙 P を取り出す場合、家庭用薄葉紙収納容器 1 の後ろ側に起立された姿勢の開閉蓋 2 が家庭用薄葉紙 P を取り出す動作の妨げにならないように、使用者は家庭用薄葉紙収納容器 1 の前面側から手を伸ばし、家庭用薄葉紙 P を取出孔 1 1 3 a から引き出すようにするので、取出孔 1 1 3 a から引き出される家庭用薄葉紙 P は手前側の縁の突片 1 1 3 c と摺接するようになる。

このとき、取出孔 1 1 3 a から手前側に引き出される家庭用薄葉紙 P に対し、手前側の縁から後方へ向かって突き出している突片 1 1 3 c が摺接することで、突片 1 1 3 c が家庭用薄葉紙 P に対して適切な抵抗を掛けて、家庭用薄葉紙 P が取出孔 1 1 3 a から引き出され過ぎてしまわないようにすることができる。

つまり、手前側の縁から後方へ向かって突き出している突片 1 1 3 c は、取出孔 1 1 3 a から手前側に引き出される家庭用薄葉紙 P に対して適切な摩擦力を付与し、引き出して使用する家庭用薄葉紙 P に続いて引き出される次の家庭用薄葉紙 P が取出孔 1 1 3 a から引き出され過ぎてしまわないようにする機能を有している。

そして、使用する家庭用薄葉紙 P に続いて引き出された次の家庭用薄葉紙 P は、その一端部が適正な長さで引き出された状態で、取出孔 1 1 3 a に保持されるようになる。

【 0 0 2 9 】

また、このようにして取出孔 1 1 3 a に保持されている家庭用薄葉紙 P の一端部は、手

10

20

30

40

50

前側の突片 1 1 3 c を含む三つの突片で支持されている。

家庭用薄葉紙 P の一端部を保持する取出孔 1 1 3 a は、取出部 1 1 3 の膨出部分 1 1 3 b に設けられているので、各突片 1 1 3 c の先端側は膨出部分 1 1 3 b の周囲の基面である取出部 1 1 3 よりも高い位置にある。

そして、家庭用薄葉紙 P の一端部は、このような突片 1 1 3 c によって周囲よりも高い位置で支持されて取出孔 1 1 3 a に保持されているので、その家庭用薄葉紙 P を摘み易くなっている。

【 0 0 3 0 】

(付勢部材)

付勢部材 1 1 4 は、図 2 に示すように、弾性材料で形成された帯状の部材である。付勢部材 1 1 4 の一端は凹部 1 1 2 の後方に固着され、他端は開閉蓋 2 の挿入部 2 3 (後述) に固着され、開閉蓋 2 を起立させる開放方向へと付勢しており、使用者がボタン部 3 を押圧した際に、開閉蓋 2 を後方の容器本体上部 1 1 との接続部分を回転軸として回転させるようにして開放させる。

10

【 0 0 3 1 】

付勢部材 1 1 4 は、幅が好ましくは 2 mm ~ 30 mm、さらに好ましくは 8 mm ~ 10 mm、厚みが好ましくは 0.5 mm ~ 3 mm、さらに好ましくは 1 mm ~ 2 mm の帯状となるように形成されている。

付勢部材 1 1 4 がこのような大きさに形成されていることによって、開閉蓋 2 の解放時に無理なく押し上げることが可能であり、かつ、開閉蓋 2 の閉塞時において、付勢部材を収納凹部 1 1 5 内において容易に折り曲げて収納することができる。

20

【 0 0 3 2 】

付勢部材 1 1 4 を、何ら力を加えられていない状態において図 2 に示すように伸びた状態となるように形成することで、図 7 に示すように開閉蓋 2 が閉じられ、付勢部材 1 1 4 が折り曲げられた際に、図 2 に示す状態に戻ろうとする力が生じるようにする。これによって、開閉蓋 2 を、容器本体上部 1 1 に対して、後方の開閉蓋 2 と容器本体上部 1 1 との接続部 1 3 を回転軸として後方へと回転するように付勢することが可能となる。

【 0 0 3 3 】

(収納凹部)

収納凹部 1 1 5 は、図 7 に示すように、開閉蓋 2 の閉塞時において、付勢部材 1 1 4 が下方へと押し込められた際、付勢部材 1 1 4 の折り曲げられた部分を収納するための凹部である。

30

収納凹部 1 1 5 は、図 2 に示すように、凹部 1 1 2 内の取出部 1 1 3 の後方かつ、付勢部材 1 1 4 の前方付近において、凹部 1 1 2 よりも更に Z 方向下方に凹状となるように形成される。

収納凹部 1 1 5 の形状は特に限定されないが、例えば、X 方向に比して Y 方向に長い略直方体状であり、開閉蓋 2 を閉塞した際に、開閉蓋 2 によって押し込められ、折り曲げられた付勢部材 1 1 4 を収納できるだけの空間を有していればよい。

【 0 0 3 4 】

(ボタン取付部)

ボタン取付部 1 1 6 は、凹部 1 1 2 の前端部において、硬質材料によって形成され、Z 方向上方へと凸状となるように環状に形成された本体側嵌合部 1 1 6 1 と、平面視において本体側嵌合部 1 1 6 1 の左右部及び前方部を囲うように Z 方向下方に凹状となるように形成されたボタン可動部 1 1 6 2 と、を備える。

40

【 0 0 3 5 】

(本体側嵌合部)

本体側嵌合部 1 1 6 1 は、例えば、平面視において前方側が曲線状、後方側が直線状であり、内周がボタン部 3 に形成されたボタン側嵌合部 3 2 (後述) の外周より僅かに大きく形成されている。そして、上方からボタン側嵌合部 3 2 を差し込むことで、ボタン部 3 をボタン取付部 1 1 6 に取り付けることができるように形成されている。

50

## 【 0 0 3 6 】

(ボタン可動部)

ボタン可動部 1 1 6 2 は、本体側嵌合部 1 1 6 1 の左右部及び前方部を囲うように下方へと凹状となるように形成されており、取出部 1 1 3 と同様の弾性材料により形成されている。これにより、本体側嵌合部 1 1 6 1 に差し込んだボタン部の先端部 3 1 a を上方から押圧した際に、ボタン可動部 1 1 6 2 が弾性変形することで、ボタン部 3 が下方に傾くように形成されている。

## 【 0 0 3 7 】

(外縁部・内縁部)

外縁部 1 1 7 は、図 4 及び図 5 に示すように環状であり、容器本体上部 1 1 の下端部に形成されている。 10

内縁部 1 1 8 は、図 4 及び図 5 に示すように環状であり、容器本体上部 1 1 の下端部において外縁部 1 1 7 よりも内側に設けられ、外縁部 1 1 7 よりも下方に突出し、収納空間 S の閉塞時には、内縁部 1 1 8 が後述する容器本体下部 1 2 の凹溝部 1 2 1 に入り込むように形成されている。

## 【 0 0 3 8 】

(取手部)

取手部 1 1 9 は、例えば、図 1 から図 8 に記載されているように、容器本体上部 1 1 の前面の中央部において、容器本体上部 1 1 と一体的に、前面からアーチ状に突出して形成されており、前面との間に指を引っ掛けることができる隙間 a が形成されるようになって 20 いる。取手部 1 1 9 の前面と対向する内面には二つの係止部 1 1 9 1 が設けられている。収納空間 S を露出する際は、取手部 1 1 9 を把持し、接続部 1 3 を支点として容器本体上部 1 1 を回転させる。

また、図 7 及び図 8 に記載されているように、容器本体上部 1 1 の前面と、取手部 1 1 9 の内面とが交わる部分は、R 形状とされており、丸みを帯びるように成形されている。

なお、取手部 1 1 9 の形状は、アーチ状に突出する形状でなくとも、容器本体上部 1 1 の前面から突出し、前面との間に隙間 a を有する形状であれば、どのような形状であってもよい。

また、取手部 1 1 9 は、容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 が係合した状態では、容器本体下部 1 2 に設けられた係合突起 1 2 3 (後述)と前後方向に重なるようになって 30 いる。これにより、係合突起 1 2 3 が正面から見えない構造となっている。

## 【 0 0 3 9 】

(係止部)

係止部 1 1 9 1 は、図 4 から図 8 に記載されているように、取手部 1 1 9 の内面に左右方向に沿って所定の間隔で二つ設けられており、収納空間 S の閉塞時に係合突起 1 2 3 に係合し、閉塞状態を維持するように形成されている。

二つの係止部 1 1 9 1 が設けられる間隔は、任意であるが、一般的な使用者の指幅よりも大きければなおよい。具体的には、5 mm から 25 mm の間で離されて形成され、より好ましくは、18 mm から 25 mm の間で離されて形成されていることが好ましい。

なお、係止部 1 1 9 1 の数は、二つに限らず、取手部 1 1 9 の内面の左右方向の中央部 40 から左右に離れた位置に各々設けられていればよく、例えば、左右に夫々二つずつ(合計四つ)設けられていてもよい。

## 【 0 0 4 0 】

(容器本体下部)

容器本体下部 1 2 は、図 4 に示すように、上面が略矩形形状の開口部となった略直方体状に形成されており、上端部には、環状の凹溝部 1 2 1 が形成されている。

また、容器本体下部 1 2 の上面の底部には、収納空間 S に収納した家庭用薄葉紙 P を取出孔 1 1 3 a から取り出す際の滑り止めとなる滑り止め部 1 2 2 が形成されている。

また、容器本体下部 1 2 の前面の上端部中央部付近には、容器本体下部 1 2 と一体的に、前方向に突出する係合突起 1 2 3 が形成されている。 50



## 【 0 0 4 1 】

( 容器本体下部の材質 )

容器本体下部 1 2 は容器本体上部 1 1 において用いられるのと同様の硬質材料によって形成されている。

## 【 0 0 4 2 】

( 凹溝部 )

凹溝部 1 2 1 は、図 4 に示すように環状であり、収納空間 S を閉塞する際に、容器本体上部 1 1 の内縁部 1 1 8 が係合するように、容器本体下部 1 2 の上端部に形成されており、外周壁部 1 2 1 1 と、内周壁部 1 2 1 2 と、を備える。

## 【 0 0 4 3 】

( 外周壁部・内周壁部 )

外周壁部 1 2 1 1 は、容器本体下部 1 2 の外周壁面として形成され、収納空間 S を閉塞する際は、容器本体上部 1 1 の外縁部 1 1 7 に当接する。

内周壁部 1 2 1 2 は、容器本体下部 1 2 の内周壁面として形成され、外周壁部 1 2 1 1 よりも上方に突出し、図 4 に示すように、後面の左右方向の両端部に設けられた第 1 ガイド部 1 2 1 2 a と、後面の左右方向に複数設けられた第 2 ガイド部 1 2 1 2 b と、を備える。

そして、外周壁部 1 2 1 1 と内周壁部 1 2 1 2 の間に容器本体上部 1 1 の内縁部 1 1 8 が摺接することで収納空間 S の密閉性が維持されるようになっている。

## 【 0 0 4 4 】

( 第 1 ・第 2 ガイド部 )

第 1 ガイド部 1 2 1 2 a は、例えば、容器本体下部 1 2 の後面の左右両端部に、それぞれ左面又は右面に延長されて設けられ、外周壁部 1 2 1 1 及び第 2 ガイド部 1 2 1 2 b よりも Z 方向の高さが高い。

第 2 ガイド部 1 2 1 2 b は、波状であり、容器本体下部 1 2 の後面に左右方向に沿って複数設けられ、外周壁部 1 2 1 1 よりも Z 方向の高さが高いが、第 1 ガイド部 1 2 1 2 a よりも低い。

## 【 0 0 4 5 】

( 滑り止め部 )

滑り止め部 1 2 2 は、容器本体下部 1 2 の底部において、周囲を硬質材料に囲われた弾性材料によって形成され、例えば、図 4 に示すように、矩形の対向する頂点を結ぶような 2 本の直線が重心点で交わり、二直線のなす角のうち、Y 方向に伸びるように形成された二角に円弧を描いたような形状を有する。

また、上記 2 本の直線の 4 つの端部は円状になっており、図 6 に示すように、当該円状部のみ弾性材料が載置面に接するようになっており、載置部 1 2 2 1 としての役割を果たす。

## 【 0 0 4 6 】

( 係合突起 )

係合突起 1 2 3 は、図 4 及び図 5 に示すように、容器本体下部 1 2 の前面の上端部略中央部において、容器本体下部 1 2 と一体的に、前方向に突出した突起部であり、収納空間 S の閉塞時において、二つの係止部 1 1 9 1 が係合される。

係合突起 1 2 3 は、Y 方向の長さが、二つの係止部 1 1 9 1 の間隔と、二つの係止部 1 1 9 1 のそれぞれの Y 方向の長さの和よりも長くなるように形成される。

## 【 0 0 4 7 】

( 開閉蓋 )

開閉蓋 2 は、図 1 から図 3 に示すように、凹部 1 1 2 の後方に回動自在に接続された扁平な曲線状の略矩形の部材であり、閉塞状態における前側に開閉蓋側係止部 2 1 を備え、下面側に開閉蓋側密閉環部 2 2 と、付勢部材 1 1 4 を挿入する挿入部 2 3 と、を備える。

また、開閉蓋 2 は、閉塞時の平面視における形状が容器本体上部 1 1 の凹部 1 1 2 の平面視における形状のうち、ボタン部 3 が備えられた部分を除いた形状と略同一となるよう

10

20

30

40

50

に形成されており、閉塞時において、凹部 1 1 2 に嵌め込むことができ、また天面部 1 1 1 と面一となるように形成されている。

【 0 0 4 8 】

( 開閉蓋の材質 )

開閉蓋 2 は、図 1 から図 3 に示すように、全体が、容器本体 1 0 において用いられるのと同様の硬質材料によって形成されている。

【 0 0 4 9 】

( 開閉蓋側係止部 )

開閉蓋側係止部 2 1 は、例えば、図 2 及び図 3 に示すように、開閉蓋 2 の前方に突出する爪状の部分である。そして、ボタン部 3 に形成されるボタン側係止部 3 3 と係合することによって、開閉蓋 2 を閉塞状態で係止する。また、使用者がボタン部 3 を押圧した際には、開閉蓋側係止部 2 1 とボタン側係止部 3 3 との係合が外れ、付勢部材 1 1 4 によって生じる付勢力によって、開閉蓋 2 が開放状態となるように形成されている。

10

【 0 0 5 0 】

なお、開閉蓋側係止部 2 1 の形状は、ボタン側係止部 3 3 に係合することによって、開閉蓋 2 を閉塞状態で係止するとともに、使用者がボタン部 3 を押圧した際には、開閉蓋側係止部 2 1 とボタン側係止部 3 3 との係合が外れるものであれば任意であり、図 2 及び図 3 に示したような爪状には限られない。

【 0 0 5 1 】

( 開閉蓋側密閉環部 )

開閉蓋側密閉環部 2 2 は、図 2 に示すように、開閉蓋 2 の閉塞時において下方へと環状に突出し、図 7 に示すように、その内周側の面が、容器本体上部 1 1 に形成された取出部 1 1 3 の外周と接触するように、下面側略中央部に形成されている。

20

【 0 0 5 2 】

( 挿入部 )

挿入部 2 3 は、図 2 に示すように、開閉蓋 2 の後端部に付勢部材 1 1 4 を挿入して固着するものである。

【 0 0 5 3 】

( ボタン部 )

ボタン部 3 は、上面を形成する上面部 3 1 と、上面部 3 1 から下方へと突出するボタン側嵌合部 3 2 と、開閉蓋側係止部 2 1 を係合するボタン側係止部 3 3 と、を有し、ボタン側係止部 3 3 に開閉蓋側係止部 2 1 を挿入することによって、開閉蓋 2 を閉塞状態で係止するとともに、使用者がボタン部 3 を押圧した際には、開閉蓋側係止部 2 1 の係止が外れ、開閉蓋 2 が開放状態となるように形成されている。

30

ボタン部 3 は、容器本体 1 0 において用いられているのと同様の硬質材料によって、別部材として独立して形成された後、ボタン取付部 1 1 6 によって固定されている。

なお、家庭用薄葉紙収納容器 1 は、上記のように開閉蓋 2 とボタン部 3 を除いて全体が射出成形 ( 2 色成形 ) により一体的に形成されていることが好ましい。

【 0 0 5 4 】

( 上面部 )

上面部 3 1 は、図 1、図 7、図 8 に示すように、ボタン部 3 の上面を形成する部分であり、例えば、平面視において後方側が直線状、前方側が円弧状となり、先端部 3 1 a 付近を除いて凹部 1 1 2 の前端部付近の平面視における形状と略同一の形状となるように形成され、先端部 3 1 a が凹部 1 1 2 から前方に突出するように形成されている。

40

上面部 3 1 の大きさは、凹部 1 1 2 のうち開閉蓋 2 によって覆われていない部分の大きさに応じて定まるが、X 方向に最も長い部分で 1 0 mm から 3 0 mm、Y 方向に最も長い部分で 3 0 mm から 1 0 0 mm の長さを有することが望ましい。

上面部 3 1 の先端部 3 1 a と容器本体上部 1 1 との間には隙間 b が形成されており、先端部 3 1 a 及び基端部 3 1 b は、容器本体上部 1 1 の上面 ( 平行 ) に対して異なる角度で下方に傾斜するように形成されている。

50

このとき、先端部 3 1 a の傾斜角度は、基端部 3 1 b の傾斜角度よりも大きくなるように形成されている。具体的には、基端部 3 1 b の傾斜角度が 6 ~ 8 度、先端部 3 1 a の傾斜角度が 8 ~ 10 度であることが好ましい。

なお、ボタン部の基端部 3 1 b は容器本体上部 1 1 に対して平行で先端部 3 1 a のみが下方に傾斜していてもよいし、基端部 3 1 b から先端部 3 1 a にかけて同じ角度で傾斜してもよい。

#### 【 0 0 5 5 】

( ボタン側嵌合部 )

ボタン側嵌合部 3 2 は、例えば、底面視において前方側が曲線状、後方側が直線状となる環状に上面部 3 1 から下方へと突出し、外周が、前述の本体側嵌合部 1 1 6 1 の内周より僅かに小さく形成され、上方から本体側嵌合部 1 1 6 1 に差し込むことで、ボタン部 3 をボタン取付部 1 1 6 に取り付けることができるように形成されている。

10

なお、内周が、前述の本体側嵌合部 1 1 6 1 の外周と同一か僅かに大きく形成され、下方から本体側嵌合部 1 1 6 1 を差し込むことで、ボタン部 3 をボタン取付部 1 1 6 に取り付けることができるように形成されていてもよい。

#### 【 0 0 5 6 】

( ボタン側係止部 )

ボタン側係止部 3 3 は、ボタン部 3 の後方に形成される孔部であり、開閉蓋 2 に形成された開閉蓋側係止部 2 1 が内部に挿入されて係合することによって、開閉蓋 2 を閉塞状態で係止するとともに、使用者がボタン部 3 を押圧した際には、開閉蓋側係止部 2 1 の挿入が外れ、付勢部材 1 1 4 によって生じる付勢力によって、開閉蓋 2 が開放状態となるように形成されている。

20

#### 【 0 0 5 7 】

なお、ボタン側係止部 3 3 の形状は、開閉蓋 2 を閉塞状態で係止するとともに、使用者がボタン部 3 を押圧した際には、ボタン側係止部 3 3 と、開閉蓋側係止部 2 1 との係合が外れるものであれば任意であり、図示したような孔部には限られず、例えば、開閉蓋側係止部 2 1 が係合する爪部であってもよい。

#### 【 0 0 5 8 】

[ 実施形態の効果 ]

以下、本実施形態によって得られる主要な効果について説明する。

30

#### 【 0 0 5 9 】

( 取手部 )

本実施形態によれば、家庭用薄葉紙収納容器 1 の容器本体上部 1 1 において、取手部 1 1 9 が設けられ、この取手部 1 1 9 に係止部 1 1 9 1 が設けられているので、使用者は、容器本体上部 1 1 の前面と取手部 1 1 9 との隙間 a に指を引っ掛けて容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 の係合を容易に解除して収納空間 S を露出することができるようになる。

特に、取手部 1 1 9 の内面の左右方向の中央部から左右に離れた位置に各々複数の係止部 1 1 9 1 が設けられているので、取手部 1 1 9 の中央付近に指を入れた際、係止部 1 1 9 1 が邪魔になることがなく、容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 の係合をより容易に解除して収納空間 S を露出することができるようになる。

40

また、係止部 1 1 9 1 が取手部 1 1 9 の内面に二つ形成され、二つの係止部 1 1 9 1 の間隔が指幅よりも広くなるように設けられていることによって、容器本体上部 1 1 を回動させる際に指が二つの係止部 1 1 9 1 の間に入りやすくなり、容器本体上部 1 1 を回動させ易くなり、容易に収納空間 S を露出することができるようになる。

係合突起 1 2 3 の左右方向の長さは、二つの係止部 1 1 9 1 の左右方向の長さ二つの係止部 1 1 9 1 間の距離を足した長さよりも長く、一つの係合突起 1 2 3 に二つの係止部 1 1 9 1 が係合されるため、係合突起 1 2 3 を各係止部 1 1 9 1 に対して個別に設けるよりも強度が上がり、より安定して係止部 1 1 9 1 を係合させることができる。

#### 【 0 0 6 0 】

また、容器本体 1 0 が、容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 とによって構成され、こ

50

れらが後面において接続部 1 3 によって接続されていることから、家庭用薄葉紙収納容器 1 を載置面に載置したままで、容器本体上部 1 1 を後端部を支点として回転させるようにして収納空間 S を露出し、家庭用薄葉紙 P を詰め替えることができる。

したがって、家庭用薄葉紙 P の詰め替えの際に、載置面に載置した状態のままで、詰め替え作業をより容易に行うことができる。

また、取手部 1 1 9 は、容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 が係合した状態では、容器本体下部 1 2 に設けられた係合突起 1 2 3 と前後方向に重なるようになっている。これにより、係合突起 1 2 3 が正面から見えない構造となっているため、見た目にも良い。

#### 【 0 0 6 1 】

また、取手部 1 1 9 の内周側が R 加工によって曲面に成形されることで、内周側が鋭角である場合に比べて、取手部 1 1 9 を外側に広げやすくなり、係止部 1 1 9 1 と係合突起 1 2 3 との係合解除がし易くなって、容易に収納空間 S を露出することができるようになる。

#### 【 0 0 6 2 】

また、容器本体上部 1 1、容器本体下部 1 2 及び接続部 1 3 は、射出成形（2色成形）等の方法で、一体的に形成されていることから、家庭用薄葉紙収納容器 1 の製造効率の面でも優れる。

#### 【 0 0 6 3 】

（取出孔）

取出孔 1 1 3 a から引き出された次の家庭用薄葉紙 P は、その一端部が適正な長さを引き出された状態で取出孔 1 1 3 a に保持されるので、取出孔 1 1 3 a に保持されている家庭用薄葉紙 P が開閉蓋 2 を閉じる際の妨げになることがない。

また、取出孔 1 1 3 a に保持されている家庭用薄葉紙 P を開閉蓋 2 で挟み込んでしまうことがないので、湿性の家庭用薄葉紙 P（ウェットティッシュ等）が開閉蓋 2 に挟まれて容器本体 1 0 の外側にはみ出し、乾燥してしまうようなトラブルが生じることがない。

#### 【 0 0 6 4 】

取出孔 1 1 3 a が設けられている家庭用薄葉紙収納容器 1 であれば、家庭用薄葉紙 P を好適に引き出して使用することができ、引き出して使用した家庭用薄葉紙 P に続いて引き出された次の家庭用薄葉紙 P の一端部を、開閉蓋 2 を閉蓋する妨げにならないように取出孔 1 1 3 a にて保持することができる。

そして、適正な長さを引き出された家庭用薄葉紙 P が取出孔 1 1 3 a に保持されるようになっていることで、収納空間 S に収納されている家庭用薄葉紙 P を引き出して使用することを好適に繰り返し行うことができる。

#### 【 0 0 6 5 】

また、取出孔 1 1 3 a の 3 本のスリットのうち X 方向に延在するスリットの幅のみが他のスリットの幅に比べて広がっていることによって、手前側を除いた二つの突片 1 1 3 c によって取出孔 1 1 3 a に保持されている家庭用薄葉紙 P の一端部の支持箇所が分散するようになり、より安定して取出孔 1 1 3 a で家庭用薄葉紙 P の一端部を支持することができるようになる。

また、手前側に延在する他の二つのスリットの幅が相対的に狭いことにより、家庭用薄葉紙 P を取り出す際に、一端部がスリットに入り込んでしまうのを防ぐことができるようになる。

#### 【 0 0 6 6 】

（ボタン部等）

本実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器 1 によれば、ボタン部 3 が、下方へと突出するボタン可動部 1 1 6 2 によって囲われた本体側嵌合部 1 1 6 1 に取り付けられている。これによって、開閉蓋 2 が閉塞された状態において、ボタン部 3 の上面部 3 1 を使用者が上方から押圧した場合、押圧した位置を問わず、ボタン可動部 1 1 6 2 が下方にひずむことによって、ボタン部 3 が下方へと沈むこととなる。

#### 【 0 0 6 7 】

10

20

30

40

50

この際、ボタン部 3 のボタン側係止部 3 3 に開閉蓋 2 の開閉蓋側係止部 2 1 が挿入されていることから、ボタン部 3 が下方へ沈むと、これに応じて開閉蓋 2 も下方へと押し込まれることとなるが、開閉蓋 2 は、付勢部材 1 1 4 によって上方へと付勢されており、このような付勢力は、開閉蓋 2 が下方へ沈み込む程強くなる。

したがって、ボタン部 3 が一定程度押し込まれると、これに応じて開閉蓋 2 が沈み込み、開閉蓋 2 に対する上方への付勢力が強くなるが、開閉蓋 2 とボタン部 3 とは、開閉蓋側係止部 2 1 及びボタン側係止部 3 3 のみによって係合しているため、開閉蓋 2 への付勢力が強くなると、この係合が外れ、開閉蓋 2 が開放される。

【 0 0 6 8 】

したがって、本実施形態によれば、ボタン部 3 の上面のどの部分を押圧しても、開閉蓋 2 を開放させ易くなる。

10

【 0 0 6 9 】

また、容器本体上部 1 1 が本体側嵌合部 1 1 6 1 を有するボタン取付部 1 1 6 を有することで、ボタン部 3 を容易かつ安定的に固定することができる。

【 0 0 7 0 】

また、ボタン部 3 において、上面部 3 1 の先端部 3 1 a の傾斜角度が基端部 3 1 b の傾斜角度よりも大きくなるよう形成されていることから、ボタン部 3 と容器本体上部 1 1 との間の隙間 b に指を入れにくくなり、家庭用薄葉紙 P の詰め替えに際して、取手部 1 1 9 と誤ってボタン部 3 を把持し、回動しようとしてしまうのを防ぐことができる。

【 0 0 7 1 】

20

(付勢部材)

また、本実施形態に係る家庭用薄葉紙収納容器 1 によれば、容器本体上部 1 1 に弾性材料によって付勢部材 1 1 4 を設けるのみで、開閉蓋 2 を開放方向へと付勢することができる。

これに対して、例えば上方へと立設するバネ状の付勢部材を備え、これが開閉蓋 2 に接続される構成とした場合、開閉蓋 2 の開閉の度にこれが折れたり伸びたりを繰り返すことから、このようなバネ状の部分が劣化し易く、開閉蓋 2 への付勢力が早期に弱まり易い。そして、開閉蓋 2 への付勢力が一定程度弱まってしまうと、これをワンタッチで解放させることができなくなってしまう。

本実施形態によれば、弾性材料によって形成された付勢部材 1 1 4 が開閉蓋 2 によって押されることによって、開閉蓋 2 に対する付勢力を生じさせる構造であるため、弾性材料で形成された部分の変形量が小さく、これが劣化し難いことから、開閉蓋 2 への付勢力が弱まりにくい。

30

【 0 0 7 2 】

また、凹部 1 1 2 に収納凹部 1 1 5 が設けられていることによって、付勢部材 1 1 4 の凹部 1 1 2 との接触部にかかる圧力が大きくなり過ぎることを防止でき、付勢部材 1 1 4 が破損するおそれを低減できる。

【 0 0 7 3 】

また、付勢部材 1 1 4 が、開閉蓋 2 の回動の支点到近い、容器本体 1 0 の後方側に形成されていることによって、開閉蓋 2 に対する付勢力が強まり、これを開放状態とし易くなる。

40

【 0 0 7 4 】

(容器の閉塞)

収納空間 S の閉塞時に容器本体上部 1 1 の内縁部 1 1 8 を、容器本体下部 1 2 の凹溝部 1 2 1 に嵌合させることにより、家庭用薄葉紙収納容器 1 に対して X 方向及び Y 方向に圧力が加わった場合でも、収納空間 S が容易に露出してしまふことが無くなり、閉塞を保つことができ、密閉性も良い。

【 0 0 7 5 】

また、容器本体下部 1 2 に備えられた第 1 ガイド部 1 2 1 2 a と第 2 ガイド部 1 2 1 2 b により、収納空間 S を閉塞する際に、容器本体上部 1 1 の内縁部 1 1 8 が当たってその

50

ま、凹溝部 1 2 1 に案内されることとなり、より確実に収納空間 S を閉塞することができる。

特に、二つの第 1 ガイド部 1 2 1 2 a が第 2 ガイド部 1 2 1 2 b よりも Z 方向の高さが高くなっているため、収納空間 S を閉塞する際に、容器本体上部 1 1 が容器本体下部 1 2 に対して多少ねじれてしまったとしても、より高い第 1 ガイド部 1 2 1 2 a でガイドされて軌道修正されるため、収納空間 S の閉塞の確実性をさらに高めることができる。

さらに、二つの第 1 ガイド部 1 2 1 2 a は、後面の左右両端部に、それぞれ左面又は右面に延長されて設けられていることにより、上記効果をさらに高めることができる。

また、第 2 ガイド部 1 2 1 2 b が波状に設けられていることにより、第 2 ガイド部 1 2 1 2 b が左右方向の全体に亘って設けられるものよりも接触抵抗を減らすことができ、よりスムーズに開閉動作をすることができる。

10

【 0 0 7 6 】

(その他の構成)

また容器本体下部 1 2 の上面に滑り止め部 1 2 2 が備えられていることにより、取出孔 1 1 3 a から家庭用薄葉紙 P を取り出した際に収納空間 S 内の家庭用薄葉紙 P が動き、崩れにくくなることで、安定して家庭用薄葉紙 P を取り出すことができる。

【 0 0 7 7 】

また、滑り止め部 1 2 2 を形成する一部が載置面に接し、載置部 1 2 2 1 としての役割を果たすことで、家庭用薄葉紙収納容器 1 を載置面に載置した際の安定性を高めることができる。

20

【 0 0 7 8 】

また、開閉蓋 2 の閉塞時において、開閉蓋側密閉環部 2 2 が取出部 1 1 3 の外周と接触していることで、収納空間 S の気密性を向上させることができる。

【 0 0 7 9 】

[ 変形例 ]

以下、上記実施形態の変形例につき説明する。

【 0 0 8 0 】

(取手部)

取手部 1 1 9 は、容器本体上部 1 1 の他の部分と一体成形されていてもよいし、別体で構成して後で取り付けるようにしてもよい。

30

(係合突起)

係合突起 1 2 3 は、必ずしも一つではなく、二つの係止部 1 1 9 1 それぞれに対して二つ設けてもよい。

(ガイド部)

ガイド部は、第 1 ガイド部 1 2 1 2 a のみの構成でもよいし、第 2 ガイド部 1 2 1 2 b のみの構成でもよい。

第 1 ガイド部 1 2 1 2 a は、必ずしも、左面又は右面に延長されて設けられていなくてもよい。

第 2 ガイド部 1 2 1 2 b は、波状でなくても左右方向に亘って同一の高さに設けられていてもよい。

40

(ボタン部)

ボタン部 3 は、ボタン可動部 1 1 6 2 によって上下動可能に容器本体上部 1 1 に備えられていればよく、必ずしもボタン取付部 1 1 6 によって取り付けられることを要しない。例えば、弾性材料をボタン可動部 1 1 6 2 A とし、ボタン部 3 の下側の全面に亘って設けた上で、ボタン部 3 を接着等の方法で直接ボタン可動部 1 1 6 2 A 上に取り付けてもよい。

【 0 0 8 1 】

(接続部)

上記においては接続部 1 3 が、家庭用薄葉紙収納容器 1 の左右方向中央部付近の一ヶ所のみ形成された場合につき説明したが、接続部 1 3 の構成はこれに限られない。

例えば、家庭用薄葉紙収納容器 1 A の左右に形成された接続部 1 3 A、1 3 A のように

50

してもよい。この場合、収納空間 S A を露出した際に、接続部 1 3 A がねじれ難くなり、その安定性を高めると共に、これを再び閉塞する作業が行い易くなる。

また、家庭用薄葉紙収納容器 1 B 後面側の全面を覆う接続部 1 3 B を用いてもよい。この場合、収納空間 S が閉塞された状態において、家庭用薄葉紙収納容器 1 B の容器本体上部 1 1 と容器本体下部 1 2 との接触部の後面側の全体が覆われることから、収納空間 S の気密性を一層高めることができる。

【 0 0 8 2 】

その他、家庭用薄葉紙収納容器 1 の細部の構成は、本発明の要旨を逸脱しない範囲で、適宜変更可能である。

【 符号の説明 】

10

【 0 0 8 3 】

1 家庭用薄葉紙収納容器

1 0 容器本体

1 1 容器本体上部

1 1 1 天面部

1 1 2 凹部

1 1 3 取出部

1 1 3 a 取出孔

1 1 3 b 膨出部分

1 1 3 c 突片

20

1 1 4 付勢部材

1 1 5 収納凹部

1 1 6 ボタン取付部

1 1 6 1 本体側嵌合部

1 1 6 2 ボタン可動部

1 1 7 外縁部

1 1 8 内縁部

1 1 9 取手部

1 1 9 1 係止部

1 2 容器本体下部

30

1 2 1 凹溝部

1 2 1 1 外周壁部

1 2 1 2 内周壁部

1 2 1 2 a 第 1 ガイド部

1 2 1 2 b 第 2 ガイド部

1 2 2 滑り止め部

1 2 2 1 載置部

1 2 3 係合突起

1 3 接続部

2 開閉蓋

40

2 1 開閉蓋側係止部

2 2 開閉蓋側密閉環部

2 3 挿入部

3 ボタン部

3 1 上面部

3 1 a 先端部

3 1 b 基端部

3 2 ボタン側嵌合部

3 3 ボタン側係止部

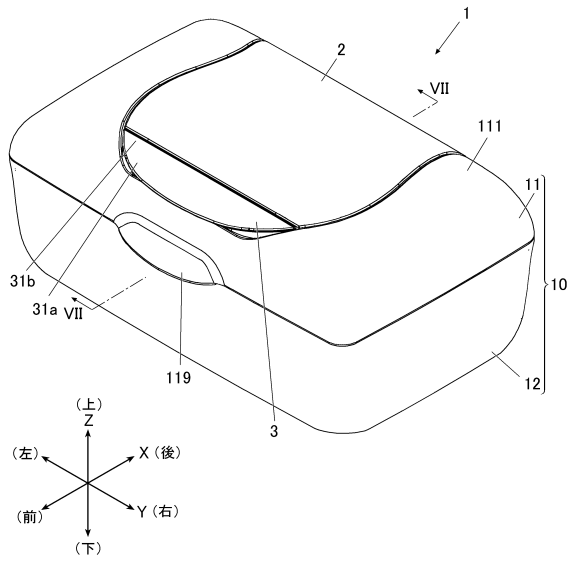
a、b 隙間

50

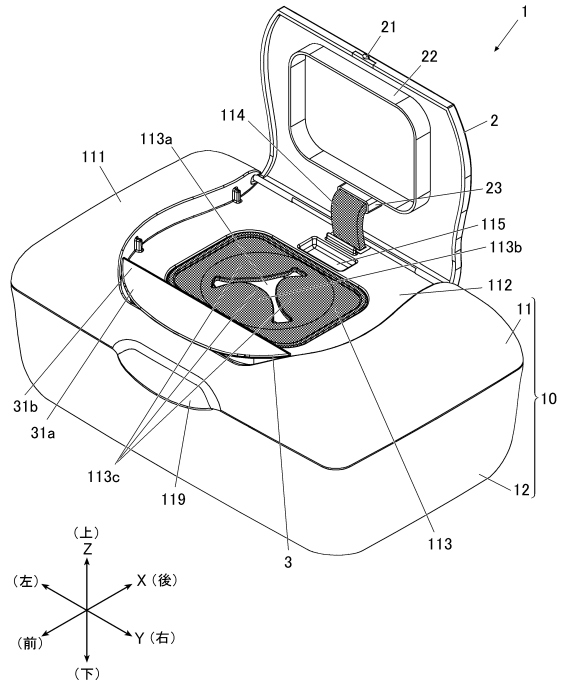
P 家庭用薄葉紙  
S 収納空間

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

20

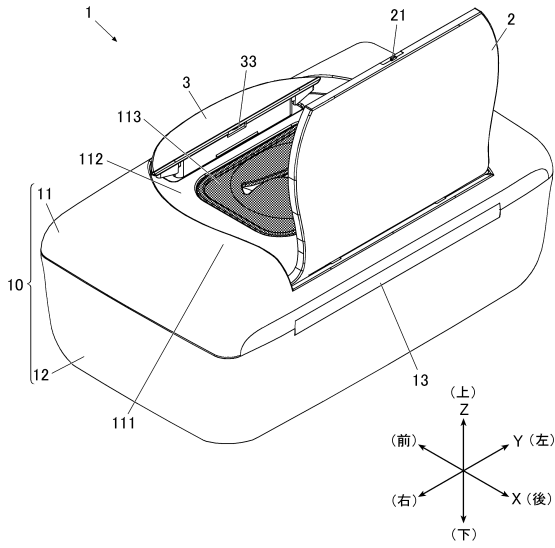
30

40

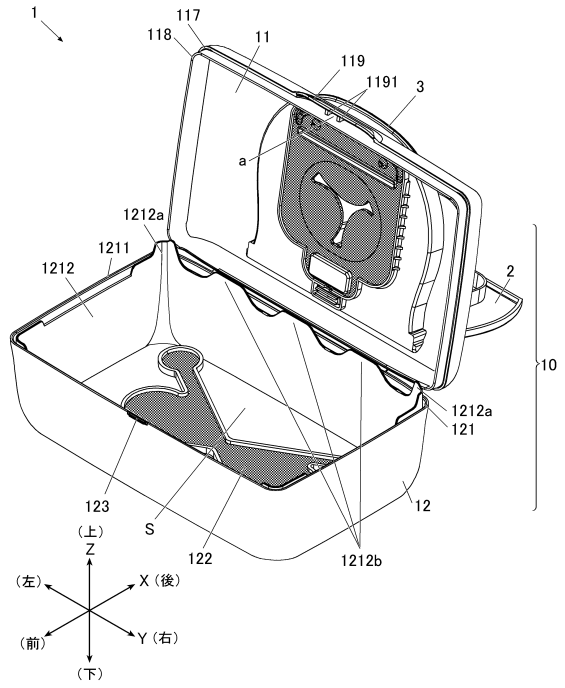
50



【図3】



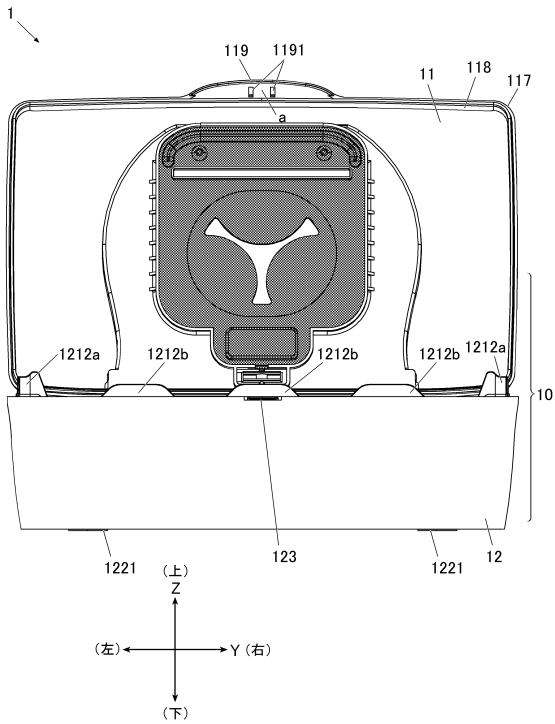
【図4】



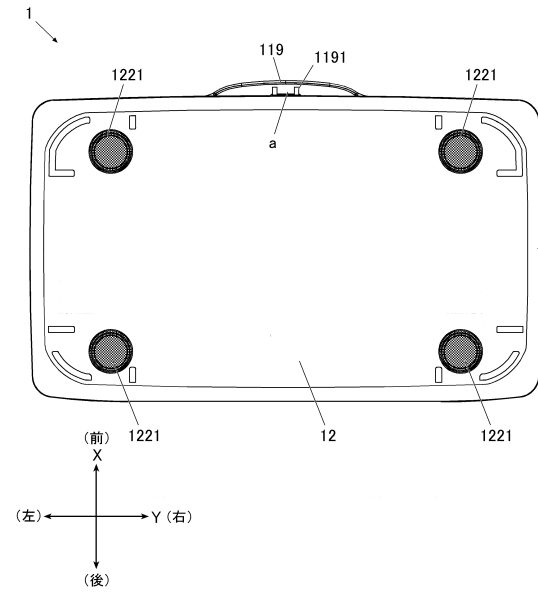
10

20

【図5】



【図6】

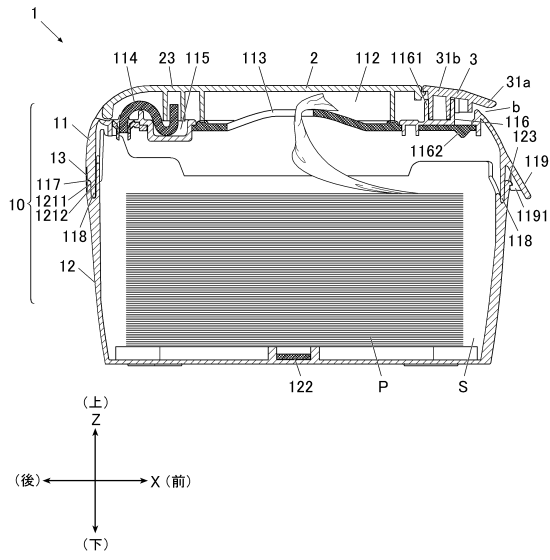


30

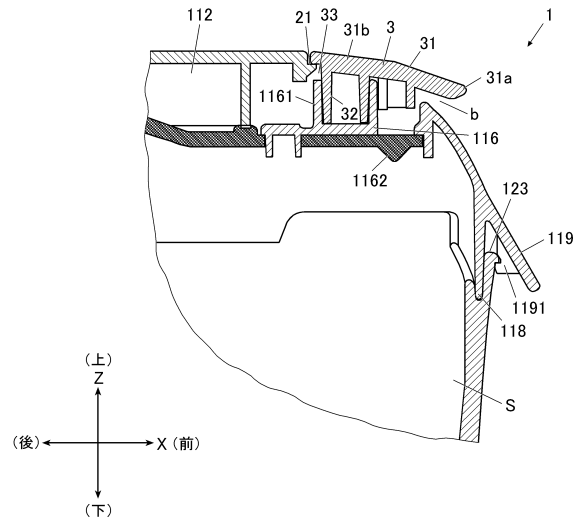
40

50

【図 7】



【図 8】



10

20

30

40

50

---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2010 - 076822 (JP, A)  
特開 2014 - 134327 (JP, A)  
登録実用新案第 3110102 (JP, U)  
特開 2010 - 001046 (JP, A)  
特開 2016 - 069028 (JP, A)

- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)  
B 65 D 83 / 08  
B 65 D 43 / 16  
A 47 K 7 / 00  
A 47 K 10 / 20 - 10 / 42